


【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄のサトウキビ
3	資料名	バガス
4	内容分類	郷土・歴史・自然科学・技術・産業
5	索引語	沖縄、生活文化、サトウキビ、SDGs、バガス
6	説明	<p>バガスとは、サトウキビを圧搾した際に発生する繊維質の搾りかすのことで、サトウキビ全体の約 25%がバガスとして得られる。主な成分はセルロース、ヘミセルロース、リグニンであり、水分を約 45%含んでいる。見た目は茶色がかった繊維質で、木材パルプに近い性質を持つ。</p> <p>バガスは食物繊維を豊富に含んでいるものの、繊維構造が非常に強固で食感が悪いため、食品としての利用はこれまでほとんど行われてこなかった。しかし近年では、廃棄物として処理されてきたバガスの資源価値が見直され、環境に配慮した素材として注目されている。</p> <p>主な用途として、製糖工場ではバガスがボイラー燃料として利用され、製糖工程に必要なエネルギーをまかなう役割を果たしている。また、紙製品の原料としても活用が進んでおり、無印良品ではバガスと竹パルプを混ぜて作った紙皿が販売されるなど、環境負荷の低減を意識した製品開発が行われている。</p> <p>さらに、沖縄県南部ではバガスを活用したクッキーやカップケーキが製造・販売されており、これまで活用されにくかった資源を新たな形で生かす取り組みも見られる。そのほか、建材や断熱材、堆肥、飼料原料として生産者に提供されるなど、バガスは多様な分野で再利用されている。</p> <p>このようにバガスは、サトウキビ産業から生まれる副産物でありながら、資源の有効活用や環境保全、地域産業の活性化に貢献する素材である。廃棄物ではなく循環型社会を支える資源として、今後さらに幅広い分野での活用が期待される、大きな可能性を秘めた存在であるといえる。</p>
7	形式	静止画 (jpg)
8	氏名	撮影者：宮田璃音
9	時代・年	撮影日：2025/08/09
10	地域・場所	
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料 1	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	
15	登録日	2026/01/09

16	登録者	宮田璃音
17	ファクトデータ	circd0888-0034.jpg
18	サムネイル	
19	公開の可否	
20	*特色	<p>①バガスと SDGs</p> <p>これまで「廃棄物」として扱われてきたバガスであるが、近年ではその資源価値が見直され、SDGs（持続可能な開発目標）との深い関連性が注目されている。特に沖縄では、地域特性を生かしたバガスの利活用が進められており、複数の SDGs 目標の達成に貢献している。以下では、沖縄における具体的な取り組みをもとに、関連性の高い SDGs の目標と結びつけて紹介する。</p> <p>目標 7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> <p>沖縄県内の製糖工場では、年間約 19 万トン以上のバガスが発生している。そのうち約 8～9 割がボイラー燃料として活用され、工場内の電力や熱エネルギーを自給する例が多い。</p> <p>バガスは植物由来のバイオマス資源であり、燃焼時に排出される二酸化炭素は、サトウキビの成長過程で吸収された二酸化炭素と相殺されるため、カーボンニュートラルなエネルギー源と位置づけられる。</p> <p>化石燃料への依存度が高い沖縄において、バガスの活用は地域の再生可能エネルギー拡大に寄与し、持続可能なエネルギー供給の実現に貢献している。</p> <p>目標 8：働きがいも経済成長も</p> <p>バガスの利活用は、地域経済の多角化を促進し、従来の製糖産業に新たな付加価値をもたらしている。紙製品や食器、建材、バイオ燃料などへの加工は、一次産業と二次産業を結びつける新たな産業連携を生み、雇用創出にもつながっている。</p> <p>このような取り組みは、サトウキビ産業が基幹産業である沖縄において、農家の収入安定や若者の就農促進にも寄与し、地域の持続的な経済成長を支える重要な要素となっている。</p> <p>目標 11：住み続けられるまちづくりを</p>

バガスを原料とした建材は、断熱性や調湿性に優れており、高温多湿な沖縄の気候に適した住宅環境づくりに役立つ可能性がある。

また、地域資源を活用した建材や製品の普及は、環境負荷を抑えながら地域の文化的アイデンティティを守るまちづくりにつながる。

島嶼（とうしょ）地域である沖縄において、地域内で資源を循環させる仕組みは、持続可能な地域社会の形成に不可欠であり、バガスはその一翼を担う素材である。

（参考元：バガスコンクリート | 株式会社キョウリツ. リンク：<https://k-kyouritu.co.jp/product/バガスコンクリート/>. 閲覧日：2025/12/24）

目標 12：つくる責任 つかう責任

バガスは製糖過程で大量に発生する副産物であり、これを廃棄物ではなく資源として活用することは、循環型社会の実現に直結する。紙製品や食器、堆肥、建材など多様な用途への活用は、廃棄物削減と資源効率の向上に大きく貢献している。

特に沖縄では、島内で発生した資源を島内で循環させる「マテリアルリサイクル」の重要性が高く、バガスはその中心的な素材となり得る存在である。
例：



ガスを使用したバイオマス容器

目標 13：気候変動に具体的な対策を

バガスをエネルギー源やプラスチック代替素材として活用することは、化石燃料の使用削減や温室効果ガス排出の抑制につながる。

特に海洋環境が観光資源として重要な沖縄では、バガス製の生分解性製品を普及させることで、海洋プラスチック問題の緩和にも貢献できる。地域資源を活用した低炭素化の取り組みは、気候変動の影響を受けやすい島嶼地域にとって、有効な緩和策・適応策の一つである。

②バガスを原料とした機能性食物繊維「醗酵バガッセ」

繊維構造が強固で食感が悪いことなどから、従来は食品としての利用がほとんどされていなかったバガスであるが、沖縄県内の民間企業はバガスの付加価値向上を目指し、研究機関と共同でバガスを原料とした機能性食物繊維

		<p>「醗酵バガッセ」を開発した。</p> <p>この「醗酵バガッセ」は、バガスを高度に再資源化した機能性食品素材であり、健康増進（目標 3）、資源循環（目標 7・12）、産業振興（目標 8）、技術革新（目標 9）など、複数の SDGs 目標に同時に貢献できる地域発のサステナブル技術である。</p> <p>現在、この素材を用いた食品として、クッキーや顆粒タイプのサプリメント、「さとうきびごはんの素」などの製品が開発・販売されている。また、沖縄では「醗酵バガッセ」とは別に、炭化処理したバガスの食品利用に向けた研究も、民間企業と琉球大学が共同で進めており、産学官が一体となった取り組みが展開されている。</p> <p>このように、これまで廃棄物として扱われてきたバガスを食品素材として活用する研究・開発は、地域資源を有効活用する新しいサステナブル技術として、今後さらに可能性を広げる取り組みといえる。</p> <p>（参考：沖縄県におけるバガスの食品利用に向けた取り組み 農畜産業振興機構. リンク：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_000983.html. 閲覧日：2025/12/20）</p>
2 1	* 活用支援	
2 2	* 利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
2 3	* 改善結果	
2 4	* 処理プロセス	
2 5	機関外リンク情報	
2 6	目標	
2 7	紹介	